

河川漁場環境基礎調査 河川定期観測調査

角 敬・山根恭道

県内の1級河川である江川、高津川、斐伊川、神戸川の環境について平成元年度から基礎データを得るために定期観測調査を継続しているが、ここに平成4年度の結果を報告する。

調 査 方 法

1. 調査地点

図-1に示した11地点で実施した。

2. 調査項目

調査項目は、水温、pH、SS、石への砂泥付着状況、底生生物（水生昆虫）である。石への付着状況についてはその沈澱量、湿重量、乾燥重量、および灼熱残渣量を調べた。なお、各調査項目の測定方法については「江川アユ生息環境調査」に準じて同一の方法で行っているため、詳細は昭和60年度の事業報告を参照されたい。

3. 調査期日

平成4年(1992年)	4月15～17日	5月13～15日
	6月24～26日	8月10～12日
	9月16～18日	10月21～23日
	11月9～11日	

結 果 と 考 察

水質、石の付着物の状況、底生生物（水生昆虫）の調査結果を付表に示した。

水温は各河川とも4月の11～12℃台から8月の22～26℃台にまで上昇するが、その後11月には再び11～14℃台に低下している。pHは6.8～8.0の範囲を変動した。SSはほぼ10ppm以下の値を示した。

石への付着物状況については場所により大きく変動している。灰分量をみると一般に数値は高い傾向がみられる。

水生昆虫については特に例年と種組成の変化は認められていない。St. 6（出羽川）はコンクリート構造物で根固めされた場所で採集を周年実施した。11月を除き採集底生生物量が1,000mgをこえることはなく他の地点と比べ低い状況にある。コンクリート構造物の設置により底生動物の生息環境（礫、巨石の減少等）が悪化していることが原因と考えられる。

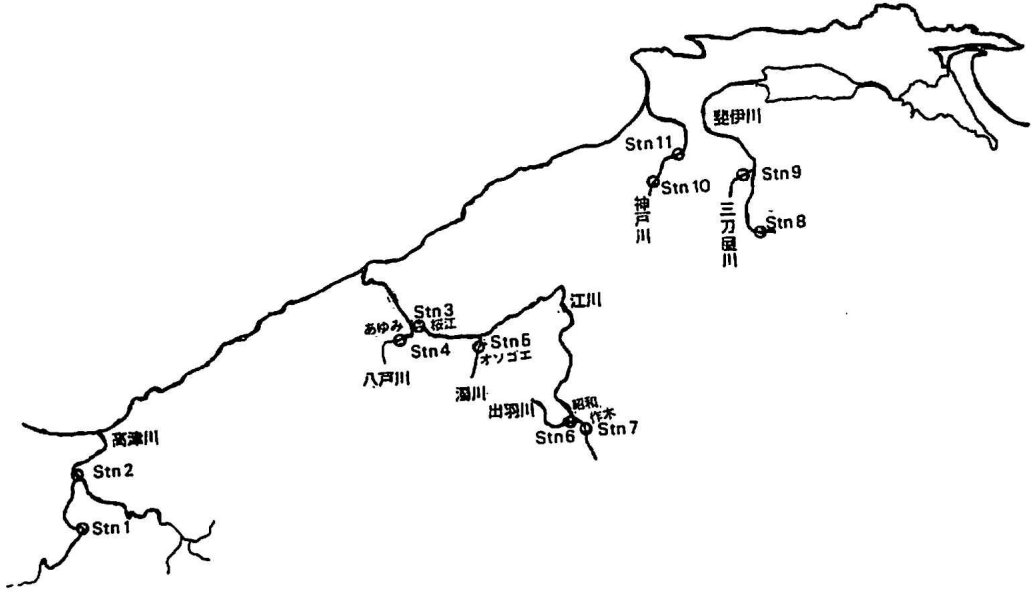


図1 調査点